

2023年年賀式・第3学期始業式校長挨拶（2023.1.10）

皆さん、明けましておめでとうございます。

2023年が始まりました。皆さんは、この2023年をどのようにしたいと思っているのでしょうか。

「一年の計は元旦にあり」と言いますが、新年の節目というのは、自分の志や目標を立てる良い時期だと思えます。是非、それぞれ「この1年をどんな年にしたいか」考えてみてください。

さて、この大講堂での年賀式も三年ぶりになりました。今回はこれも三年ぶりに音楽部吹奏楽班の武蔵讃歌を演奏してもらいました。やっぱりいいですね。また、今、高3の代表生徒からも、これも三年ぶりに大講堂でのユーモアに富んだ大変立派な挨拶をもらいました。素晴らしかったと思います。

この三年間、武蔵もそうですが、世界はコロナに翻弄されてきたと思います。我が国のコロナの罹患者は累計3千万人を超え、約3年で人口の4分の1近くが感染した計算になるそうです。ワクチンの普及や経口薬の開発・処方など状況は変わってきていますので、武蔵でもこの間、コロナへの対応は段階的に戻してきましたが、その流れは加速させていきたいと思えます。2月には強歩大会も予定されています。また来年4月には記念祭も開催されます。ぜひ素晴らしい行事になるように願っています。後ほどお話しますが、ここ3年間止まっていた、グローバル関係の取組、武蔵と海外提携校との交流も再開していきたいと思えます。

とはいえ先週7日に発表された死者数も過去最高の463人ということで、高齢者や基礎疾患のある人にとって、厳しい状況は変わりません。引き続き、やるべきことはやりながら、コロナに立ち向かっていきたいと思えます。

特に、今年の冬はインフルエンザとの同時流行も懸念されています。まず何と云っても、登校前の健康確認をして無理をしないこと。そして校内においては、状況に応じた感染防止対策を主体的に考え続けてほしいと思えます。

さて、年頭の所感として、私の方からは「昨年のワールドカップサッカー」から考えたことについてお話をしたいと思えます。

カタールで行われたサッカーワールドカップでの日本チームの活躍は素晴らしいものが

ありました。ドイツ、スペインを破ってのグループリーグ突破。決勝トーナメントでは、惜しくもクロアチアにPK戦で敗れましたが、見事な戦いぶりでした。

皆さんは、なぜ、日本チームが強くなったと思いますか？

私は二つのことを考えました。

一つは多くの代表選手が海外でプレーをして、まさに世界基準が問われる世界のトップリーグで、選手たちが一つ一つの真剣勝負を積み重ねていることです。

日本が最初にワールドカップに出場したのは1998年フランス大会。このとき海外組は0人でした。その8年後、2006年のドイツ大会は6人。さらに8年後の2014年のブラジル大会は11人。そしてまたその8年後、2022年のカタール大会は26人中19人になりました。つまり0人が6人、11人、19人と倍々ゲームのように、この20年あまりに増えていったということです。

一人一人、海外にチャレンジしようとした経緯は違うと思いますが、中田英寿や本田圭佑のようなフロンティアが道を切り開くことにより、日本のサッカー選手が海外で評価されるようになったこともあるでしょう。でも、すごい。狭い国内の世界にとどまっているのではなく、世界にチャレンジしようというマインドがサッカー界に浸透していったということだと思います。

そして、もう一つ日本サッカーが強くなった理由は、日本サッカー界が「成長」という価値を重視していることだと思います。もちろん、勝負の世界ですから、勝つこと、成果を出すことを目指しています。でも、根本のところでは、結果に一喜一憂するのではなく、常に成長することにサッカー界の人々が価値を置くようになったように思うのです。

私はサッカーが好きで、よく見ていたのですが、最初にこのことを感じたのは2006年のドイツ大会で監督になったザッケローニの言葉でした。「成功は必ずしも約束されていないが、成長は必ず約束されている」そうなんです。成功できるかどうか、成果がでるかどうかは時の運もあるかもしれない。でも成長は本人の自覚次第で、どんな状況であっても出来るんだと思います。

今回も日本代表の森保監督が、クロアチア戦に負けた後にこう選手に語っています。「結果にはつながらなかったけど、選手たちの努力が色褪せることはない、みんなよく戦った。そして、ベスト16の壁は破れず、新しい景色を見ることができなかったと言われ

るかもしれないが、この悔しさを次の成長につなげてほしい。サッカーを続けている限り、選手も我々スタッフも、常に成長しながら、レベルアップしながら戦っていかなくてはならない」と。

皆さんは人生における成功をどう思いますか。成果を上げることだと思いませんか。どうでしょう。

人生の様々な瞬間では、結果は必ず出るので、勝った負けた、成功した失敗したという世界に捉われがちですが、実は一番大事なのは、成長し続けることなんだと思います。負けても失敗しても、そこから人として、人生が終わるまで成長し続けることが一番大事なのではないでしょうか。

サッカー界が強くなったのは、グローバルという世界水準で戦っているマインド、そして成長ということに価値を置いているマインドだというのが私の考えです。

ぜひ武蔵生諸君にも、この二つ、若い感性の豊かな時期だからこそグローバルな世界に飛び出して世界基準を体験すること、成長を大事にすることを意識して欲しいと思います。

グローバルについていえば、武蔵には様々なグローバルの取組があります。冒頭にもお話ししましたが、コロナ禍でストップしていた国外研修も、国状の違いなどがあり、全部の提携校というわけにはいきませんが、この3月から3年ぶりに再開することにしました。

また、提携校からの受入れも再開します。

そのスタートとして、1月14日から28日までの二週間、韓国の漢栄外国語高校からの生徒3名を受入れます。3名の生徒は高1のクラスに加わり、授業を受けます。また、高2の生徒の家庭にホームステイをしてもらいます。

ぜひ武蔵生のホスピタリティ、おもてなしの精神を発揮してほしいと思います。二人の生徒とも日本語を勉強しています。ぜひ、同じクラスの人のもとより、中学生から高校生まで、日本語で、あるいは韓国朝鮮語を使って、挨拶を含め、気さくに声をかけてほしいと思います。また、困っていそうなときには助けてあげてほしいと思います。

そしてもう一つの成長を大事にすること。これからは受験の季節。勝った負けた、成功

した失敗したということに捉われがちだけれど、それはあくまでも一通過点に過ぎません。結果に一喜一憂しすぎることなく、そしてそれぞれの努力に誇りをもって、人としての成長を見失うことなく、この2023年を、そして長い人生を歩んでいってほしいと思います。

以上で、私の年頭のお話を終ります。ご清聴ありがとうございました。